

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)3377-4649

振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

FAX(03)3299-5367

購読料 月額600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

「大競争の時代」と春闘.....	2
ムキダシの資本主義があらわれ始めた.....	3
——カネ、カネ、カネに踊り狂う経済と政治——	
「まるごと」が大きな傾向に.....	6
——「政治休戦」のゆくえ——	
統一地方選まであと一ヶ月.....	7
九五春闘・国鉄闘争勝利へ.....	8
——職場・地域で体制づくりを!——	
JR北海道は早期全面解決はかれ.....	10
——全面解決せまる2・15新得集会開く——	
レオナルド熊さんと北海道.....	11
◇兵庫からの報告◇	
「人」が生きていくための救援、復興を.....	12
明るく、楽しく、「元気」を上げよう!.....	13
——管理職ユニオン第二回大会の報告——	
読者からのおたより.....	15
◇新刊案内 社会通信刊 上野建一著 千五百円◇	
「政界再編後を読む——護憲の旗を掲げて」.....	16

旬刊 社会通信

NO.598

一九九五年三月一日

一九九五年三月一日発行
(毎月一日・二日・三日三回発行)

■ 巻頭言 ■

「大競争の時代」と春闘

賃上げ闘争を考える(一)

今年は四十年めの春闘です。誕生日は一九五五年ですから、その年生まれた人も今年四十歳になります。孔子の言によれば「不惑」の年ですが、労働界は迷いに迷っているのが現状です。その傾向はすでに七十年代後半から見られました。当時、全電通や鉄鋼労連といった組合が「春闘見直し」を声高に叫んでいたからです。

指導者がこんな態度ですから、春闘が組合員一人ひとりにまじめに考えられようはずはありません。我々のような壮年者は“こんなこと許してなるものか”とがんばったのですが、高度経済成長期に生まれ育った若者たちには、“春闘ってなに”“労働組合に相談しても、会社が困難な時、何をバカなことをと不利益を受けるだけ”“だから、労働組合の役員には本当のこといえるわけないじゃない”と、シラケは深まるばかりの状況です。

ですから、“春闘の時期だからガンバロー”といっても、なかなか若者たちに理解してもらえないのが現状とはいえないでしょう。

さまざまなアンケート調査は「若者の企業離れ」一フリーターという「職種」がジャーナリズムではモテモテです。私たちの世代では「半失業者」といわれたのですが一が宣伝されています。「人生は一度」、したがって「春よ来い」の春希のように自由に生きたいというのが、若者たちの願ひとなります。それが「企業離れ」の現象につながるのでしょう。

しかし、企業は“したたか”です。私は就職のことを学生時代、ほとんど考えませんでした。私の友人もそうだったように思います。今年、学校を卒業する若者、したがって去年、就職先が決まった人は、もう夏休みから企業研修がおこなわれています。ゼネコンに就職した従子の子どもは、「在京中お世話になりました。これから半年は山の中の研修所住まい。それから半年は現場で実習です」と。ある友人の子どもはかつては「この子口があるのかしら」と思うほどおとなしい、無口な子だったのですが、一年の研修期間のあとには人が違うほどおしゃべりな子に変身していました。企業教育・研修の「力」です。

企業は不況の中でも“若者の意識の変化”を教育しようと、社内報に最大限の費用をかけています。それは新聞の広告欄にしばしば見られる「地獄の訓練」、あるいは富士政治学校の盛況ぶりにも明らかです。ところが、労働組合の機関紙は一部を除き、ビジュアル化、漫画化の一途をたどるだけです。はなはだしくは「読まれていないから」とやめてしまふといった状況です。

企業はできうるかぎり金をかけ「企業の哲学」を植え込む、それにたいし労働組合は職場実態からいちじるしくかけはなれた「組合決定」を一方向的に報告するだけ。これが一九七〇年代以降の彼我の教育・宣伝の実態といつて過言ではないでしょう。

春闘誕生から四十年。日本経済は大きく変わりました。学卒者の比率は四〇パーセントを超えています。「金の卵」は選別される時代に入りました。初任給も凍結ならまだいい方で、マイナス傾向が強まっています。「大学は出たけれど」が新たなキヤッチフレーズになる時代です。

世はまさに「メガ・コンペティション」(大競争)の時代に突入しています。ダイエーがサントリーの商品を販売拒否する時代です。「生きるために」賃上げ闘争はこれから重大課題になることは必至です。九五春闘はその出発点になるのではないでしょう。

ムキダシの資本主義があらわれ始めた

——カネ、カネ、カネに踊り狂う経済と政治——

「民営化」政策で株式市場は大混乱

二月二十七日付各紙は「株価急落、一万七千円割れ」と大きく報じた。翌二十八日付朝刊は「東証株価の大幅下落―不良債権償却に遅れも」と、「金融危機管理」を大きく報じている。これは、英国の名門マーチャントバンク・ペアリングスが日経先物取引という投機に失敗したことから派生した出来事だ。最近の経済雑誌、書物には「デリバティブ（金融派生商品）」との用語が大はやりだが、先物取引とはまさに「デリバティブ」ということだ。

日経の経済欄、とりわけ金融商品を列記するページのなんと多いことか。われわれの関心は株式、それも現物。少し金持は外為市場くらいで、細かいことはわからない。筆者は株大好き人間だが、株売買とは縁がない。金がないからだ。毎朝、イの一番に眼を通すが「社会党はどうなってる」との政治欄、ついで株式欄だ。

二八日の株式欄、昨日の東京証券株式市場の動きを示す「東京株式指標」はこうだ。TOPIX（これは第一部上場株価全体の値動きを示す）は一三二〇・九六で前日比マイナス五〇、二二五種平均株価（日本の代表的企業二五社の株価を示す）は一万六八〇八・七〇円で前日比マイナス六四・二四。どうして各種市場だけ銭単位が生き残っているのか不思議だが。出来高（一日の株売買高）は約三・一三億株とある。出来高がきわめて薄く、株価が乱高下しているのが今年に入ってからの特徴。

日本の株式持合率は法人（企業）七〇％超、個人二〇％超で、個人の持株比率がきわめて低い。そのなかでも個人の持株比率が高いとされるのが、中曽根民活時代に「民営化」された諸企業。NTTの放出価格はたしか一九九万円強。一時三二〇万円にもなったが今日（？）は？ 二七日の終値はなんと六九万四〇〇円。NTT株をもっている人で儲けている人は皆無に近い。ではJR東の株価は？ 放出価格は四八万円、初値は六〇万だったと思うが、現在は四二万二〇〇円。これも儲けてる人はいない。

さて日本タバコ（JT）は？ タバコが食品産業とはきわめて異なることだが一この欄の後から二番目にのせられている―は、放出価格一四三万円がなんと現在七七万五〇〇円。これらは政府持株の放出としていわゆる創業者利得、JRの場合一・七兆円がすべて政府（大蔵省）の懐に入った。得をしたのが大蔵省（政府）で損をしたのが個人投資家というわけだ。「株はもうコリゴリ」と株式から手を引く個人、企業、団体が多い理由もここにあり、したがって高い（売買高）は薄くなり、その手数料を企業利潤の源とする証券会社が「存立の危機」にさらされるというわけだ。

利子率の階級性

国労闘争団のメンバーが私に「五年前、闘争団の資金運用を五%で計画した。しかし今は一・七五%。しかもマル優廃止で利子に一率二五%課税。実質利息は一・三%前後。計画が狂っちゃいました」と、語ってくれた。さらに彼は「闘争団の経験がなければ利子率

一%の変化の重みを知ることでもなかったから、大いに勉強させられた。いい人生経験をして視野が広くなりました」とも。

利子率低下、そして所得減税とマル優廃止はバブル崩壊後、自民党政権と細川政権下、精力的に進められた。その本質は、バブル崩壊という名の投機経済の破綻で不良債権を山ほどかかえ、危救存亡の危機におちいった銀行、とりわけノン・バンク（各種銀行の貸付専門会社。銀行は預金と貸金の利ざやを利潤の源とするが、ノン・バンクは一方的に貸し付けをおこなうだけ。銀行も金貸し業だが、ノン・バンクはいわゆる高利貸）、住専（住宅専門の貸付金融会社）の救済措置であったのだ。

数字は一定しないが郵便貯金（世界最大の貯蓄銀行。その資金は簡易保険、年金等といまって財政投融资というかたちで運用される）を含め、個人の預金残高は約六〇〇兆といわれる。利子率が一%引き下げられればどうなる。利子というかたちで預金者に支払われていた六兆円が銀行の「収入」となる。預金者は六兆円損をし、金融機関は六兆円節約つまり儲けられるというわけだ。過去数年の間に利子率の基準となる公定歩合は五・五%から一・七%に引き下げられた。これにマル優廃止が加わるから四%ちかくも利子率が引き下げられたことになる。個人の総預金高六〇〇兆円、利子率四%下落。銀行はどれだけ得をしたことになるのかしら。計算してみてもよ。アタマにこないかしら。

利子率の操作って、まさに階級対立そのものであることが分るじゃないですか。でも分らないよな。ほくら、利子で生活するほど貯金がないもの。このカラクリは知らなきゃ、本当の階級闘争はたたかえないのじゃないかしら。もちろん、搾取の根源は労働力の売り買い、それに端を発する「時間どろぼう」にあるけれど。

こんな“異常高金利”あり？

資本主義は価値増殖の全運動だ。だから、一%どころか〇・一%の利益率向上に全精力を傾注する。「あなたの資金運用は万全ですか」と、新聞、雑誌にいかにも「マネー欄」の多いことか。でも一年の定期預金ではせいぜい一・八〜一・九%がいいところ、これも名目で税金をさっぴかれれば一・五%前後。「価格破壊」、地価・不動産の値下がりや宣伝されるが、消費者物価はけっして下がっていない。利子は物価上昇に相殺されてしまう。だから「持てる者」は、一%の利子率の上下に血みどろになる。

それが東京協和、安全信金の不正融資の根源だ。AERA（三月六日付）によると、大口預金者—その中には全電通もふくまれているが—の一ヶ月定期で五・九%から三・八%というまさに“異常高金利”。都市銀行では一・八〜一・九%の横ならびだから、その三〜二倍。

金利自由化でおまけ付きの懸賞金を付けた信用金庫（信金）があつたが、とてもその比ではない。全電通の預金は六億円とあるのだから。最大はティエフコーポレーションとやらで三七億円、利子率は一ヶ月で三・八%。「富める人」はナタレ込むよな。

こんなめっちゃくちゃな経営やつてるところに大蔵省・日銀、そして東京都は税金をつぎこみ救済するという。阪神大震災で庶民はどんな思いしてるの。彼らには一銭も—といえぱいすぎか—出してない。ここに階級性があらわれている。利子運用に血道を上げる輩は救う、しかし日本を地べたで支えてきた勤労者にはいろいろ条件、注文をつけ、あげくのはては放り捨てる。

ペアリングスそしてメキシコ危機

これが国際的拮かりをみせたのが前述のペアリングス——平社員（たとえ責任者であっても）が独断で一兆円をこえる資金を運用するなんてことは百%ありえない——の投機失敗事件であり、メキシコ・ペソの下落事件である。

国際金融商品（これも「デリバティブ」の一部か）が低下したとき、アメリカ資金を中心に全世界の余剰資金がメキシコに流れ込んだ。ところがメキシコの貿易収支は赤また赤結果、ペソは崩落。八十年代のメキシコ金融危機が再現されたというわけだ。

しかも一九三〇年代に典型だった地域主義——メキシコは中心部でも貧富の格差（スラム街）はすさまじいが、チアペス州にみられるような地域格差は言葉に絶する状況——、それにペルー・エクアドル国境戦争のおまけまでつけた。これらは、資本主義諸国内の「反体制」勢力の弱まり、国際的には「ソ連を中心とする従来の社会主義体制」の崩壊が、ムキダシの資本主義を世界各地に招来し始めたことを示すものである。

政党助成金は地震対策費に使う

最後にカネにまつわるもう一つの話し。政党助成金が確定した。自民一三二億、新進八六億、社会六六億、さきがけ七億、民政連六億、公明五億等々（端数切り捨て）、総額三〇九億円だ。これらは血税。

兵庫に政治は何をしたのか。自衛隊は人殺しを訓練する軍事力。そんな組織に「人命救助」ができるわけがない。関東周辺の地震も秒読み段階に入っていることは、だれもが認めるところだ。

政党助成金を神戸に拠出するか、それとも「秒読み」に入っている関東をはじめとするその他地域の「災害救助隊」結成への資金とすべきである。じつにささやかなことだが、これが実行されたとき、「政治への信頼」回復の一助となろう。まず社会党から実践すべきと思うがどうか。

いよいよ「ドル危機」か

今アメリカは第二次バブル期。遊休資金が株式市場で踊り狂っている。株価はついに四千ドルを超えた。かといって、アメリカ経済の実態がマスコミで報じられるほどよくなった根拠はない。

サッチャー時代のイギリスがそうであった。北海油田開発、そしてイギリス炭労壊滅作戦の成功は、サッチャー自身をもビックリさせた首切り合理化で人件費が圧縮され、結果「イギリス経済の奇跡」を現出させた。ところが夢は三年とつづかなかつた。

クリントンのアメリカも同様である。三つ兎の赤字は解消していない。富める者と富まざる者の格差は拡大するばかり。首切り効果がいつ競争戦のなかで破綻を来すのか。その時こそ、ドル崩壊、世界大不況再現となるであろう。

（滝野）

「まるごと」が大きな傾向に

——「政治休戦」のゆくえ——

護憲社会党（兵庫）は国労とともにわれわれの機関車である。その機関車に直下型地震が襲うとは。なくなられた同志、そして被災された兵庫・大坂の仲間からお見舞を申し上げたい。

「二つの山 花は二分咲き 村八分」とは全通新聞にのった川柳である。「花」は新会派結成から離党、新党結成をようやくと決断したが、地震で頓座。まさに「二分咲き」で、いつ枯れ落ちぬとも知れぬ状況である。「村」は党内抗争（「花」と「村」の考え方は変わらない。社会党の看板ぬり替えは両者ともに同じ。違いは時期だけ）から「解放」されたが、「人が良いだけでは総理大臣は失格」と国民から「村八分」の状況である。

当初、二月十一日に予定された臨時党大会は、「三月十一日にも」といわれたが、二月二三日の中執委で再び延期され、統一地方選後となるようである（ちなみに当初一月九日に予定されていた自民党大会は三月五日に延期された）。この一ヶ月、社会党は「流れ解散」の様相を強めている。

第一、北海道では伊藤秀子氏が道知事選に立候補を声明。道本部は伊藤氏を除名処分とした。この動きと相まって、参議院の中尾氏は社会党・護憲共同の会派から離脱、衆議院の金田氏は離党している。中尾、金田両氏の想いは「労組にふり回されるのもうごめん」「自民党議員の方が人間的で自己の思想に忠実」ということだろう。

一言つけ加えておけば、北海道の混乱ぶりは目を覆いたくなるほどで、「北海道新党」とか「新進党との選挙協力」とか、思いつきの発言が、現場の怒りをかっている。

第二、高知では西岡参院議員が離党し、護憲リベラル（田英夫代表）に加わったし、広島では小森衆院議員が離党を表明。広島県本は慰留の方向だが、小森氏の意志は固いと伝えられる。

第三、統一地方選での立候補者が前回を大きく下回っていることだ。昨年从今年にかけての各級議会選挙では、大都市部を除き、田辺、山花、久保そして村山委員長らの「解党論」にもかかわらず健闘している。しかし四月におこなわれる統一地方選挙はきわめて苦しい闘いになりそうだ。「社会党ではたたかえない」状況をこれら幹部諸氏がつくり出しているからだ。

第四、それに引き続きおこなわれるのが七月の参院選挙である。自民党有力者の見方は「村山政権は長くてこまで」というもので、村山政権を背後であやつる竹下元首相、梶山元幹事長らは「村山以後」に想いをはせているにちがいない。

第五、何より危惧されることは、社会党内に無気力が横いつしていることである。この原因に敵を見失っていることがある。社会党を「流れ解散」的狀態においこんだ張本人はむろん支配階級（民間政治臨調に巢食う財界、連合主流、新保守主義といわれる人びと）であるが、その意を受け行動しているのは党内にあつては、田辺（山花はその代理人）、

久保たちであることに、気付こうとしていないことである(村山委員長も同罪)。

一九八九年からはじまった「政治的激動」は誰もが予想しなかった「神戸大震災」の余波をモロに受け、野球でいえばこれから四回表裏の攻防に移る。「ブレ統一地方選」での県知事・市長選では、政治的無関心は「きわまりり」という状態だが、みずからの生活を守るために本場に「政治が必要」な季節にこれから入る。

第一、兵庫のルネサンスには本当の政治の力が必要だ。資本の論理にまかせるのか、それとも世界が驚いた神戸市民の創意と工夫にもとづくのか。この課題は、「計画」、再度社会主義を考えさせる契機となろう。

第二、規制緩和は現代の「体制的合理化」であることだ。しかもこのモデルたるや破綻ぶりがだれの眼にも明らかになった国鉄「分割・民営化」だということのである。政府は大地主・国鉄の所有地の約半分を売り、JR東の株放出で一・七兆円もの創業者利得を手にした。ところが、「分割・民営化」時につくられた借金は、減るどころか逆にふえている。来年度には運賃値上げも必至となり、何のための「規制緩和」かとの疑問が噴出しよう。

第三、NTT民営化、国鉄「分・民」で生産性はそれぞれ八〇、四〇パーセント急上昇したとのことだ。NTTでは三三万体制から今一七万体制、JRでは四〇万体制から二〇万体制が現実である。一千万とも二千万ともいわれる失業増大はこれまた必至。そして神戸はもちろん、内外価格差是正という政策で小零細企業主とその一員がとたんの苦しみに追いこまれよう。

かくて、だれのための政治かが問われるのである。

社会党の動向は次回に詳述するように労働組合の動きともあいなって、「まるごと」に大きくなだれ打つことになろう。「花」「村」そして彼らを背後で操作してきた労組も手詰まりで、四月統一自治体選挙の結果によって大きな動きが生まれることになるのではないか。

(T)

統一地方選まで一ヶ月

統一地方選挙が目前にせまった。これまでなら、街中「美男・美女」の顔写真が所狭しと張りめぐらされ、「選挙間近かし」をそれらポスターが実感させてくれたのだが、今回は改悪「公選法」により、きわめて静か。静かすぎて、今から投票率が心配になるほどだ。現職、元職はともかく。新人は宣伝のやりようがないのではと思われる。

まず知事選。全国的影響力をもつ福岡、神奈川は大政翼賛会型。「二大勢力撃突」といえばかつこいいが、実体は「共産対非共産」。これでは投票所に行くのもおっくうになるうというものだ。北海道では共産対自・さ対連合(社・公・民・進)。冒険家でスキーヤーが無所属で立候補することだが、大勢に影響は与えまい。中央とのネジレが北海道の有権者に「政治参加」の機会を与えたこといえそうだ。

東京は本命だった石原(内閣官房副長官)擁立が、新進・公明の異議申し立てで五里霧中。そこにエセ経営評論家で平成維新の会(今もあるのかしら)の大前研一、日本新党時

代の細川のバカ様の親友？出雲市長が手を上げて目下の所、大混戦の状況だが、東京都の利権を自民とともに手にしたい公明（七〇万票）の「威力」で、これも「共産対非共産」の大政翼賛会型の可能性大である。その場合、自民・田中派から新自クへ、そして自民へ舞いもどり、今では新進党というように閥閥だけでなく、華麗な転身を誇る鳩山邦夫が候補となる可能性も濃厚だ。

こうした都民無視の候補者選びに青島幸男氏が立候補するのではとの観測も強い。最終判断は三月中旬とのことだが、青島氏が立候補ということになれば、自・さ・進・公は「内輪ゲンカやつてる時ではない」と、鳩山か出雲市長の岩國に候補を調整、十兆円にのぼる東京の利権を分け合うことになる。

なぜかは知らぬが、「朝日」にのみ、上田哲立候補宣言の記事が掲載されている。二二日付の朝日によれば、彼の仲間（平和憲法の会21）が擁立を決めたという。青島氏と上田氏がともに立候補というのでは反「自民・新進・公明」の有権者の戸惑いは大きくなる。これも立候補が確定しなければ、という状況だが。

大阪では中川現知事が、選挙責任者の選挙違反で立候補できない状況。大阪は労働運動が労資協調、その力で大政翼賛会型政治を黒田府政以降、全国にさがけてつくってきたところだ。おそらくここも福岡、神奈川同様、だれも投票所に行きたくない構図がつけられることになる。

社会党の山花君一派と解党を画策する社会党支持労働団体は「第三極」をめざすという。「第三極」、つまり自民、新進にとって代わる「極」擁立のためには三つの条件が必要だ。第一に政策、理念、第二に支持基盤、第三に地方での競争である。現状、社会党支持担合、山花グループと自・進との間に政策、理念の違いはなく、消費税、年金、神戸地震、東京の信用組合救済問題をみても、支持基盤に差違はなく、知事選で社会党系候補ゼロというのだから、これでは「極」の形成など夢のまた夢でしかあるまい。

統一地方選挙は四月九日（県議、政令指定都市）、四月二三日（市町村、知事他首長）の日程でおこなわれる。社会党にとってきわめて困難な選挙となることは必至。党内山花グループ、労働組合はいうにおよばず。自・さ・進等の諸政党も「村山政権は長くとも七月参院選まで」とのヨミで動き始めている。社会党内「護憲派」（離党者ふくむ）の態度が問われるのはいよいよこれからである。

九五春闘・国鉄闘争勝利へ

——職場・地域で体制づくりを！——

三月一六日、JR北海道のダイヤ改正が予定されています。今回のダイヤ改正では札幌を中心とした列車の増強と説明されていますが、地域に住む人達にとってはますます利用しづらいものになっていきます。

また、JRに働く人達は休憩時間のやりくりなどで名目だけの時間短縮が進められ、実質拘束時間が同じで業務が増大している状況にあります。ある運転職場では昨年一年間だけでも三名の現職死亡が出るなど、尊い命も奪われています。最近激増している事故の抑

制をしようと、二月一日には非常事態宣言がJR北海道から出されています。

しかし、法定超動を超えるような過酷な労働条件、事故が起きればすべて働くものの責任とする、今のJRの姿勢が改善されない限り安全な鉄道輸送は実現しません。

国労は違法行為を繰り返しているJRにたいし、職場からも点検・摘発を強めながらJRに働く全ての人が定年まで安心して働ける環境や利用者が安心して利用できる鉄道輸送を目指して闘い続けます。

国労はこの間、合理化提案などでJRとの団体交渉を進めてきましたが、会社側は職場の実態がどうなっているか理解していないため、説明員もあわせ一六〇一七名にも及ぶ人数が揃い、国労に対しては交渉委員のみしか認めず、わずか五名に対して一方的な団体交渉を繰り返しています。

組織的に言うとも国労はJRの中で少数組合となっていますが、要求は各職場の実態や組合員から出されたものを交渉し、職場との往復運動の中で少しづつ前進してきました。一方、他労組は現場で話せばすぐに解決するようなポット一つまで団交事案にのせ、事案の件数とその達成率が大きいと宣伝しています。

このような事案は国労関係ではほとんど解決しているような問題で、他労組はとれるようになってからはじめて団交にあげながら、実績作りをしています。他労組の組合員は職場などで問題が起きると、真っ先に国労の役員や組合員に相談にきています。闘争団としても職場の中では多数派となっている状況を組織的にも多数派にしていくため、組織の拡大と全面解決の実現に奮闘していきます。

名寄と深川を結ぶ深名線が廃止されようとしています。JR北海道の説明によれば「年間一〇億円の赤字が発生し、経営を圧迫するから廃止する」と言われています。

北海道で黒字路線と言えば千歳線の千歳・札幌間、函館本線の札幌・旭川間ぐらいしかないと言われています。JRの考え方からいけば、数年後には北海道の鉄道はほとんどなくなるようになります。

鉄路が切り捨てられていくと地方に住む人達はますます生活しづらい環境となり、これから迎えていく高齢化社会には対応しきれなくなります。国労はあくまで地方交通線の廃止には反対の立場で、JR北海道の経営姿勢を追求していきます。

JR北海道は国鉄の分割・民営化の際に多額の経営安定基金を使い発足しています。だからこそ単なる企業の都合のみでローカル線を廃止することは許されません。

一方的に首を切られ闘争団を結成してから、残念ながら早くも九五五年を迎えようとしています。この五年間苦しい生活を強いられた苦悩の日々を送ってきましたが反面、支援の仲間の暖かさなど闘争団をやっているからこそ経験できたり考えられるようになったことも数多くあります。組合員はもとより家族も大きく成長してきました。

名寄闘争団としてもその経験をより一層生かしながら、一日も早い解決にむけて闘争団の闘争体制と要求を妥協しないだけの生活体制の確立、生活水準のレベルアップにむけサンピアの事業活性化を進めるため、クリーニングの取次所開設、野菜せんべいのカタログ販売、軽運送荷物の取り扱い、旅行取り扱いなど精力的に取り組みと準備、次年度の体制作りを進めています。

(名寄闘争団)

JR北海道は早期全面解決はかれ

——全面解決せまる2・15新得集会開く——

国鉄清算事業団闘争に連帯する新得会議（松尾為男議長）主催の「JR採用差別八年糾弾！不当労働行為は許さない！政府・JRに全面解決を迫る2・15新得集会」が十五日夜、新得労働会館で開かれ、約八十人が参加し早期解決を訴える決議を採択した。

昨年十二月に国鉄清算事業団が国労のストに対する損害賠償訴訟を取り下げると紛争解決のきざしが出ているが、松尾議長は「全面解決をめざし、もう一歩前進するよう連帯の力を借りたい」と呼びかけた。

広山輝男新得平和運動センター議長は「基本的人権、憲法の問題であり闘いを強めよう」と連帯のあいさつを行った。森田宏道国労帯広支部委員長が訴訟和解の経緯など闘争報告と支援を訴えた。元総評全国オールの森茂さんもかけつけ激励のことはをかけた。

集会では、阪神大震災の救援に国労闘争団も現地に入っており支援カンパが行われ、十六日の帯広での座り込み行動の参加者の「団結ガンバロー」で闘いの決意を確認した。

なお、十六日に同会議と社会党新得支部（水尻清広支部長）、新得平和運動センターの代表三人がJR新得駅を訴え、早期解決の要請を行い、以下のJR大森社長あての要請書を本社へ郵送した。

「一九八七年四月一日、国鉄の分割・民営化が強行され、JR各社が発足しましたが、八年前の二月十六日には国労組合員など七六二八名が不当にも差別・選別でJRに不採用となり、国鉄清算事業団に「収容」され、一九九〇年四月一日には、一〇四七名が二度目の解雇を強行されました。

これは、あつてはならない採用差別の不当労働行為であり国労は労働委員会に申し立て、一九八九年一月二十日には、北海道地方労働委員会は「国労所属の故をもって採用拒否したことは不当労働行為である」として「国労組合員一七〇四名をJR北海道会社・同貨物会社の社員として取り扱うことを命ずる」として救済命令を交付しました。貴社側は、再審査を申し立てましたが、一昨年十二月二十四日、中央労働委員会は「当事者適格がない」とする貴社側の主張を退け、旧国鉄とJRの使用責任を認めました。しかし不当労働行為の一部に限定、救済内容等、地労委命令から大きく後退しております。

しかし、貴社側は運輸大臣や労働大臣が再三にわたり「話し合いによる解決」を促したにもかかわらず、行政訴訟を起こし「不当労働行為の責任が国鉄にあったとしても、その責任を負うのは清算事業団でJRに責任がない」と開き直りともいえる陳述をしました。

このことは、北海道地労委・中労委という二度にわたる命令を無視することであり、労働委員会制度に対する挑戦的態度であるといわざるを得ません。

さて、国鉄清算事業団は、昨年十二月二十四日に国労との間で二〇二億損害賠償と国労会館立退きの両訴訟を取り下げ、和解に合意しました。これは、亀井運輸大臣の「和解によって解決してほしい」との提示を相方が受け入れたものです。

この際、貴社側も、徒に紛争を長期化させることなく、自らの非を認め「政・労・使」

による交渉テーブルをつくり、J・R採用差別事件等、労使紛争の早期全面解決「健全な労使正常化」をはかることを要請します。」
 (北海道・佐野周二)

レオナルド熊さんと北海道

今から既に、二カ月以上も前のことである。昨年の十二月十二日早朝、北海道新聞を読んでいる「新十津川生まれ、レオナルド熊さん死去」という記事が目についた。内容は、「北海道出身（一九三五年空知管内新十津川町生まれ）の人気お笑いタレント、レオナルド熊さんⅡ本名井上千歳Ⅱが十一日午後九時六分、東京都目黒区の国立第二病院で死去した。五十九歳」。最後に「庶民感覚に立った鋭い風刺と、ペーソスあふれるユーモアが身上。道内でも積極的に活動し、政治問題をテーマにした講演を通じて、国鉄の分割・民営化に伴う解雇撤回を訴える上川管内音威子府村などの国労闘争団を支援。消費税の導入にも反対した。」と書かれていました。私は、読みながらすぐに次のことを思い出していました。それは一九八七年六月七日・日本社会党の運動（基本路線の堅持！）にとつて歴史的同時いえる「党建協」設立総会に寄せられた“メッセージ”のことでした。全文を紹介します。

弱い鰯は大群でこそ レオナルド熊

弱い魚が群れを離れると、すぐ大魚のエサになってしまうのを見た労働者が、「小判ザメのように大魚についていけば、身の安全が得られる」と考えて、大企業魚の後を追った。ところが、大企業は世界中の漁師の阿米で追いたてられると、小判ザメはウムを言わずうち捨てられる。身の危険を知ったが、うつ手がなかった。途方に暮れている時、側を鰯の群れが、小判ザメには見たこともない魚に見えた。

もう一つ、週刊誌（週間新潮・九五年一月五日号）の記事も紹介します。

その後、熊さんはコントから遠ざかる。テレビ出演も減り、活動は講演が中心となった。テーマは「環境問題」や「教育問題」。また、社会党を支持し、選挙応援や集会に何度も参加してきた。

「結核になって、きれいな空気が大事とわかった。だから環境問題を強く訴えてきた。別に芸をやめたわけじゃない。昔から社会批判をしていたし、それをおもしろおかしく、講演でやるだけ。一貫していたんです」（妻の加奈さん）。

コメディアン・レオナルド熊さんの芸は直接は見えない。テレビでしか見えないがこんなに「お笑い界」の実情は、「庶民感覚に立った鋭い風刺・ペーソスあふれるユーモア」「社会批判」等々が出来る芸人は極めて稀であると思っている。

（一九九五年二月二十日・松村清治）

◇兵庫からの報告◇

「人」が生きていくための救援、復興を

避難所の人々を訪ねて

あの日から一ヶ月が過ぎました。
 生きていることを確かめた日から、やがてこれからは生きていくために新たな闘いの日々が始まっています。現在もなお二四万人を越える避難所生活を余儀なくされている人々を訪ね、感じることを報告します。

「議員が来て一体何なんねん。いろいろ来るけど何の役にも立たへん。せめて便所の掃除でも黙ってして帰れ！ 現職の議員、全部落としたる。」突きさすような言葉です。しかし、現実の政治、行政の姿が言わせているのです。

行政当局による、被災した「日と」の実情把握は行われていません。死者数と大枠での避難生活者数が把握されているだけです。高齢者がどのような状況にあるか等は放置されたままに近いのです。

避難所生活についての満たしたい基本条件を決定している訳ではありませんから、一日二食でパンばかり続くこともでてきます。高齢者の中には寒さと冷たい食事で下痢を訴える人も多く、衰弱に拍車をかけています。

お風呂に入りたい、着替えのできる場所が欲しい、隣を気にせず家族だけで手足を伸ばしてみたい、思いきり泣いてみたい、勉強したい……。こうした生きていきたい当然の思いが「一刻も早く住宅を」の声に集約されてあふれています。最優先でこの声を受けとめさせなければなりません。

大地震は、行政や政治がいかに実は市民生活を軽んじた視点で構成されていたかを露呈しました。

行方不明者が増え続けたのは一人暮らしの高齢者等が、日常的なケアの体制の中に居なかつた事を知らせています。

避難者の衰弱の一因に、人に迷惑をかけないように、水や食物の摂取を控え、排泄しないようにする高齢者たちの努力があります。神戸市には六五名のヘルパーしか居ませんでした。追跡し介護する手など全くないという事実です。

一時的なボランティアに継続する介護をゆだねる事は出来ません。

神戸市が国に提出した緊急要望に「人」は見あたりませんでした。人が生きていくための救援、復興であるはず。知らしめましょう。生きる闘いをおこしましょう。

(岡崎宏美・「起き上がる」5号より)

救援カンパ口座(郵便振替口座も新たに開設しました)

・さくら銀行 神戸営業部 口座番号7557183 口座名:護憲社会党「阪神大震災」

対策本部救援カンパ

・郵便振替口座 口座番号 00930-4-55578 口座名称:護憲社会党阪神大

震災対策本部

明るく、楽しく、「元氣」をあげよう！

——管理職ユニオン第二回大会の報告——

管理職に席をおく労働者のなかで労働組合（ユニオン）ができたのは、混乱している社会状況を象徴しているのではないだろうか。経営者や労働組合、社会的（特にマスメディアがとびつく）にも注目された管理職ユニオンの船出は、結成にたずさわった全労協・全国一般・労働弁護団などの各方面の方々から「どのようなユニオンになるのか心配」との声をよそに、総評運動解体以後の一つのあたらしい労働運動のあり方をもとめる期待に込めるものであった。

一九九三年の結成大会では覆面（写真取材拒否や公に氏名をあかせない）の方々もいたが、一年間の献身的な活動のなかで九三名の方が正式な組合員になっている。

多くの組合員は、新聞・テレビなどマスコミの記事や報道をみて「われにもすがりつくような気持ち」で電話のダイヤルをまわしている。企業のなかで中核的な役割をもって、ある意味では会社人間として「一生懸命やっていたれば何時かは報われる。『就社』して以来、会社という権力に身をすり減らすまでにすりよって頑張ってきた」（手記から）と働いてきたが、ある日突然解雇され、人権侵害やいやがらせを受けてきたのである。産業空洞化の効果、リストラ攻撃などの犠牲を強いられるなかで管理職ユニオンは結成されてきたのである。

大会では、執行部から「昨年の結成以来、反響がありながんだか分らないうちに第二回定期大会をむかえた。マスコミにのったりしていい気になっていたので今後の発展はないであろう。地に足をつけて踏ん張っていきたい」と訴え、大会傍聴者や三〇名ほど詰めかけている報道関係者にも率直な発言をもとめたのが印象的であった。

《元氣と連帯感がでてる交流会》 「月一回の交流会にでると非常に元氣がでる」との声を聞いて充分に納得のいく会場の雰囲気であった。NHKテレビで「サラリーマンの三人に一人は心の病にやんでいる」「会社をやめたいが奥さんに言えないので蒸発してしまっている」方がかなりふえていると報道されていたが、「管理職ユニオンにきていただければ心にたまったものがリラククスして元氣がでる」（執行部提起）というように他の組合とちがって鑄型にはめ込むのではなく、労働環境や経験、生活状況のこととなった組合員の主体性をおおいに尊重していることが発展の原動力になっている感がある。

一方で統一性や連帯がないとバラバラになる危険性もあることには違いがない。組合員が中心になって管理職ユニオンへの加入を呼びかけるパンフレット『新しい時代の選択』も二カ月でつくりあげ、『会社をやめる父から会社に入る息子、娘たちへ』と題した手記は新聞記者から六月二日提案を受け、昨年一月二七日には出版レセプションを催した。

《管理職ユニオン結成の成果》 ①人権侵害とたたかってきた。②管理職でも労働組合をつくれる。③希望と激励をあたえた（管理職ユニオンに入っただけでいじめが苦にならなくなった）。

④「駆け込み寺」からの脱皮をはかる（解決すれば辞めてしまうのが常識であったが、ユニオンでは辞める人はいなくて相談にきた人が組合員になっている）

⑤管理職ユニオンは新しい組織のあり方を示した（上下関係はなく自由で自主的な労働組合をめざしている）

《なにが問題か》 専従は一人、相談はすでに六〇〇件を越えており他のものが担わなにかぎり対応ができない。新事務所の開設が急務となっている。

①新しい時代の選択、新しい時代の労働組合活動とはどういうことなのか。

②社会に貢献する、利益をもたない事業化活動。
株式会社とし株主はどなたでも入れ、提案権があり民主的な手法で運営ができる。参加者全員が株主であり労働者であり経営者である。

自主的に事業を計画して企業経営を責任を持っておこなうスペイン・モンドragon手法（日本でいえば生活協同組合的手法）

最初は取り組みやすい販売形態をとり社会に役立つものとし、つぎに新規事業をおこなう段階的にすすめる。具体的には全国一般・国労・個人闘争団の方々との事業の連帯を考えてすすめていく。

《スト権一票闘争》 執行部提起のなかで重要な意味合いを持ったものの一つに、「ストライキ権確立一票投票」があった。組合員のだれかに不当な配置転換の業務命令が出たときに対抗してたたかう防衛的なストライキであり、ストライキを行使しながら経営者と交渉する事であった。

配置転換・出向、人権侵害的に仕事を取り上げられ机に座らせ一週間に一度レポートを提出させられる人が増えており、耐えられなくなったらストライキ権を行使する内容であった。スト権一票投票は、投票総数六八名、賛成六六名、反対二名で確立された。

《労働者の権利抑圧、蹂躪にたちあがる》 労働者の権利擁護を目的に結成された弁護士は、総評解散後に日本労働弁護団として労働裁判闘争を通じて労働者・労働組合とともに判例を勝ち取ってきている。昨年の相談件数は五〇〇件、ほとんどが正社員であり中高年であった。「雇用調整をはね返そう」と本が出版されているが、管理職も労働者であり労働法が適用されたことを訴えてきている。「管理職ユニオンの活動が多くの管理職に勇気を与え、経営者に管理職をいじめたらどうなるのか知らしめてやりたい」と訴えていた。

経営者側の弁護士も管理職ユニオンを重大なテーマとして取り組む。リストラをめぐる中高年管理職・サラリーマンと経営者側の攻防がはじまることになる。

《存在だけでも大きな役割》 会場内での発言は、①管理職ユニオンが存在するだけで大きな役割がある、②多くの加入したいであろう人にも門を広げた活動を、③市民運動的なものと労働組合が一緒にやっていたいける中身にすべき、④会社人間でやってきて、これはおかしいぞと思うことがあるが議論する場がなかった、⑤ボランティア等社会的な役割を議論する必要がある、⑥朝日新聞を見て管理職ユニオンを知り資料を送ってもらった、などであった。

「今まで管理職ユニオンはロマンで引つ張ってきたと思う。一年のなかでそれを支える社会性があり、マスコミも追いかけてきた。しかしロマンだけではだめだ。ニーズに応えてはじめて社会が認めたものになる、地道なところでの活動が求められているのではないかとまとめた設楽書記長のまとめは印象的であった。」

◇ 読者からのおたより ◇

原稿送ります なかなか通信が送れなくて。憲法と武装放棄、そして死刑制度について書きます。一月中には送ります。 (山形・菅野)

編集部より よろしく、待っています。ここの所お便りないので心配してました。

発展祈る 貴誌の発展を願っています。 (札幌・S)

一歩前進 「国鉄闘争」も二〇二億訴訟取り下げて一歩前進。政界再編ではやはり「護憲」の声が地域からもふくらんできている。したたかに今年もがんばろう。 (深川・KO)

編集部より 北海道知事選面白くなった？

区議選がんばってます ご苦労さま。元気に勝利に向ってがんばってます。 (新宿・K)

編集部より 選挙も間近。何が何でも勝つー！がんばって。

兵庫のみなさんがんばって 阪神大震災は国労共闘支援で私どもになじみ深かった神戸の地を襲っただけに、本当に驚きました。現地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。夫たちもさっそく一月末から現地へ向け出発したところです。兵庫の皆さん、この災害にくじけずがんばって下さい。 (佐賀・西山)

編集部より たまには詩を送って。闘争団のがんばりニュースでみました。

誌代切れにならない方法は？ たいへんな情勢です。がんばりましょう。JR九州でもがんばってます。誌代切れにならない方法はないでしょうか。 (鹿児島・S)

編集部より 公共料金のように自動振込ってわけにもいきませんし、よろしく。

シコシコがんばる 党大会も微妙な状況になって。私たちの運動に中止や延期は許されません。シコシコとがんばっていきます。 (東京・T)

編集部より 誌代ありがとうございます。歴史を作る気迫でシコシコやりましょう。誌代の残り、兵庫に送って I氏に就職を紹介され、現在、印刷(金属)において働いております。厳しい経済環境、とくに産業の空洞化は国内中小企業に「価格破壊」攻撃はさまざまいものがあります。党員の立場ですが、現在は悪名高い労務の仕事をしています。今後も「通信」の発展を期待します。なお、職場で兵庫のカンパ集めはしています。誌代の残りは兵庫に送ってください。 (S)

編集部より お仕事、本当にたいへん。がんばって下さい。

兵庫に支援と連帯 兵庫の我が同志も多くの犠牲、被害をこうむりました。社会党の解体・再生に寝食を忘れてたかかってきた同志達に、このどん底の傷跡から立ち直ることもたいへんだが、今まで以上にどう護憲の旗を守り、力強く生き抜いていくか、各地からの連帯と励ましを希望。新しい街を創るとともに、社会党を生き返らせるために。 (大坂・I)

編集部より おっしゃること大賛成。兵庫の仲間とともに新しい社会、党をつくる。

護憲が焦点 憲法について九条にかざらず二五条等ちゃんと勉強していかねばならないと、職場にいてつくづく感じます。護憲が焦点なんですね。 (東京・H)

編集部より 加藤弁護士シリーズいかがでしたか。ぜひご参考に。

息子とともに兵庫支援へ 阪神大震災は私の実家・尼崎でもたいへんでした。尼崎総支部の行動で息子(中一)とともに立花小学校の避難先へうどんの炊き出しに出かけ、被災者

支援の行動に親子奮闘しました。神戸市長田周辺のいとこの奥さん、高二年生、中二年生の三人の被災死亡はショックですが、がんばります。(奈良・F)

編集部より 本当に言葉がございませぬ。兵庫のためにがんばらなくては。

町議選闘かう 年末に母を亡くし一時休眠していましたが、ようやく始動。統一地方選では二名の党公認で町議選をたたかいます。久しぶりに読者を拡大しました。(鹿児島・K)

編集部より 拡大ありがとう。いよいよ春、社会も春にしましょうよ。

護憲の社会党再建へ 最近の社会党を見るかぎり、いつ離党しようか考える時多し。でも離党するのは簡単なれど、本来の社会党(護憲の党)として一日も早く労働者、市民から信頼される党になるようにガンバリたいと思う。中央で離党などの声が出ているが末端党员は解党は望まない。民主主義を大切といっていた社会党が民主主義を捨てているのではないか。護憲の社会党がいやだったらはやく出ていってもらいたい。今の社会党を「護憲の党へ再建」しましょう。(えひめ・T)

編集部より おっしゃるとおり。社会党をつくり直しましょう。「護憲ネット」に集中することです。お互いががんばりましょうよ。

メッセージ 誌代半年分送金いたします。多少の残りは活動費へカンパ。我々はいつの時代でも少数意見の闘いに耐えて、守るべきものは守ってきました。如何なることがあろうと、この城を放棄することはできません。(熱海・武井)

編集部より カンパありがとう。城は守らにやいけません。守り方はさまざまです。力あわせが必要です。お力お貸し下さい。

兵庫支援は業務命令 外は大雪。先日、二年ぶりに職場の仲間四人とスキーに行きました。ところがリフトに乗っているところに仲間の一人に放送での呼び出し。家族の病気かとおわてて電話したところ、明日一時から神戸に二週間、復旧の支援に行けとの命令。本人に「否応なし」の対応。スキー仲間とともに頭に来たものの午後には帰る。NTTの災害を利用する強圧的な姿勢に怒りすら覚えました。(I)

編集部 華々しく宣伝されるボランティアの裏にこんなこともあるなんて、許せん。

◇ 新刊案内 上野建一著 定価千五百円 ◇

政界再編後を読む — 護憲の旗を掲げて

絶妙のタイミングに絶好の本を出版することができた。タイトルを一読していただければそれは明らか。次号から詳しく宣伝するが本書の内容は—

第一章 小選挙区制と政界再編の行方— 二大保守政党制から一大政権党へ

第二章 混迷する連立政権の軌跡— 保守二大政党制への政治過程

第三章 「政治改革」と「政界再編」の虚構

今後、「社会党問題」にどう対するか。その道筋を明らかにしている。ご注文は社会通信社、上野出版実行委員会まで。割引制度もあります。ただし一部の場合、送料は三五〇円になります。できうるかぎり部数まとめていただければ幸い。詳細は次号をご参照ください。